

〈発展問題〉

問一 1 エ 2 ア 3 ウ 4 イ 5 オ

問二 オ

問三 例 ・資源そのものを使いつくしてしまうような勢いだから
 ・大量の副産物やゴミを生み出すようになったから

問四 イ

問五 エ

問六 ア × イ × ウ ○ エ ○

問七 例 いままでは、より文化的な生活をいとなむために、人類は資源を使い、副産物やゴミを出しながら科学や技術によって新製品をつくって利用するという「せまい意味の文化」を追いもとめてきた。しかし、これからは、地球全体とか地球の将来についても考える「ひろい意味の文化」をめざし、科学や技術もそのために活用することができだろう。

解 説

出典は、島村英紀「地球がわかる50話」より。

問一 1 「森の木を切り倒して～自然破壊」であったが、「その（破壊の）規模は地球が自然に回復する能力を越えなかった」→自然破壊はあったが、回復可能だった」という文脈ですから〈逆接〉。 2 「人類は、長いあいだかかってできたこのエネルギー源をたいへんな勢いで使っている」＝「つくられた時間よりもはるかに短い時間のうちに消費している」と前後ほぼ同じことを言葉を換えて説明していますから〈換言〉。 3 「副産物やゴミの問題」の一例として「人類がエネルギーを使うにつれて二酸化炭素が増えてくるという問題」を示していますから〈例示〉。 4 「エネルギーを使うとかならず出てくる熱の問題」「世界の原子力発電所から出るゴミも、年々増えつづけ～（核廃棄物の処理問題）」と「副産物やゴミ」の「問題」を並べて示していますから〈並列〉。 5 「この（地球の）財産を山分けして都合のいいように使いつくしてしまうのか」「人類や地球の資産として未来のために生かせるのか」という〈選択〉の文脈です。

問二 脱文のポイントは、「～大量の二酸化炭素を出しているのです。～二酸化炭素が、こんどは人類のせいで、また増えはじめていますのです」という内容にあります。大気中の「二酸化炭素が増えている」ことの具体例を示しています。このことを確認したうえで、文章全体から「二酸化炭素が増えている」ことを部分的な〈話題〉としている形式段落、あるいは、意味段落を探し、検討します。「人類がエネルギーを使うにつれて二酸化炭素が増えてくる」という問題があります。自動車や飛行機や船のエンジンが動いたら、かならず二酸化炭素が出ます。工場からも発電所からも（二酸化炭素が）出ます。ストーブを焚いても（二酸化炭素が）出ます」（37～41行め）とあり、42行めからは「地球の温暖化」の〈話題〉に進みます。したがって《オ》と推理できます。

問三 「人類の活動の拡大」が「地球にその回復能力を越えるほど影響を与えるようになった」理由・原因について述べている部分・表現を読み取ります。——線部後半「地球全体に影響するようになっていく」「人類の活動」について述べている部分・表現と言い換えることができます。また、設問中の「二点」もヒントとなります。——線部直後から、「地球にある空気や水」が有限であること（10～14行め）、「人類はいまや手に入る自然を利用したいだけ利用」し「人類のいまの文化」を述べたうえで「ここには私たちが考えなければならないむずかしい問題」＝「人類が～勝手に利用したいだけ利用しようとする時代がいつまでもつづいていいのだろうかという問題」を提示（21～24行め）、続いてその「問題」を具体的に「一つは資源そのものを使いつくしてしまうかもしれないという問題」「もう一つは、人類が利用したために副産物やゴミが出て、それが地球に影響するかも知れないという問題」（25～27行め）と「二点」にまとめています。「地球に影響する」「人類の活動の拡大」した具体相が問題点という形で示されています。

問四 「錦の御旗」とは、「日と月を金銀の糸で刺繍した赤地の錦の旗。朝敵征伐のときの官軍（政府または朝廷の軍隊）の旗」転じて「その行為や主張を正当化し、権威づけるもの」を表します。——線部を含む一文の冒頭に「このときに」とあります。「いままでよりさらに文化的な生活をいとなむために」「資源を使い、副産物やゴミを出しながらつぎつぎに新製品をつくって利用してき」た（72～74行め）時代において「科学や技術は錦の御旗で」あったというのです。いろいろなマイナスがあっても、「科学や技術」がもたらすものは「正当化」され、「権威」あるものとして受けとめられたということです。

問五 ——線部を含む文脈をたどります。「ひろい意味での文化」という視点に立ち、「地球全体とか地球の将来について」考える（78～80行め）場合にも、科学や技術は有力な手段でありうる、という文脈です。いままでの「せまい意味の文化」（72～76行め）において「資源を使い、副産物やゴミを出しながらつぎつぎに新製品をつくって利用」という時代をリードしたのも「科学や技術」ではあったが、そのような文化に対する反省としての「ひろい意味での文化」においても、現存の「科学や技術」は有効であるとするのが筆者の考えです。資源を枯渇させ有害な「副産物やゴミ」を出すから「科学や技術」を全否定するというような考え方ではありません。

問六 100字を超えるような選択肢、あるいは、二文、三文からなる選択肢の検討は、いくつかに分割し、その部分、部分について文章内容を照合し、正誤判断を下す、という手順をふむのが基本です。ア 「フロンガスやPCBはもともと人体に無害なものであった」→「フロンガス」については○（63～65行め）ですが、「PCB」については69行め「人体

にふれたときだけが猛毒^{もうどく}だった」とありますから×。「地球の温暖化によって有害な物質に変化し」は文章内容からは判断できません。イ 第一文は7～10行めの内容と合致しています。「酸性雨や地球の温暖化は科学者の努力によってなくすことができる」は文章内容から判断できません。「科学技術の進歩をさらにおし進めるべきだ」も、いままでの「科学技術」のあり方^{ありかた}には疑問^{ぎもん}を投げかけ（72～80行め）ているので不適当です。ウ 第一文は7から10行めの内容と合致しています。第二文は78～89行めの内容を具体的に言い換えたものです。エ 第一文は1・2行めの言い換えです。「地球の歴史」が約46億年とすれば、その「一〇〇〇分の一」約4600000年が人類の歴史ですから「ずっとあとのこと」と言えます。第二文～第四文は72～89行めの言い換えとなっています。

問七 設問文中の「いままでの『文化』のあり方と対比するかたちで」という条件が、読み取りのヒント・方向づけになります。「いままで（過去）」vs.「これから（現在～未来）」という枠組^{わくぐみ}で文章内容を整理しましょう。筆者自身が、「いままで（過去）」＝「せまい意味の文化」（75行め）vs.「これから（現在～未来）」＝「ひろい意味での文化」（79、80行め）と対比的な表現を使って説明しています。「せまい意味での文化」については、72～77行めの段落で説明しています。「さらに文化的な生活をいとなむために人類は～資源を使い、副産物やゴミを出しながら〔科学や技術によって〕新製品をつくって利用してきた、とあります。これに対して「ひろい意味での文化」については、78～84行めの段落で説明しています。「地球全体とか地球の将来についても考えなければならない～科学や技術は有力な手段ではあ」る、とあります。「160字以内」という字数から考えて、二文構成とし、反省・克服^{こくふく}すべき〈過去〉＝「せまい意味の文化」を第一文とし、〈逆説〉でつなぎ〈未来〉＝「ひろい意味の文化」を第二文とする、という形でまとめるのがよいでしょう。

3

〈基本問題〉

問一 1 エ 2 オ 3 イ

問二 っている。(保っている)

問三 エ

問四 1 きわめて有毒

2 きれいな語感(良いイメージ)

問五 例 紫外線が目や皮膚に当たって発生する活性酸素が、老化や病気の原因となることが知られているから。

問六 1 紫外線は、植物の葉や花や実をきれいにするから。

2 ア

問七 エ

問八 ウ

解 説

出典は、田中修「ふしぎの植物学」より。

問一 1の前後は「元気になる」といった同じような内容を言っているので選択の接続詞「あるいは」。2の前では活性酸素が有毒であり、紫外線が当たると活性酸素を発生させると説明され、空欄後では「紫外線を避けているのだ」とあるので、順接の接続詞「だから」。3は、紫外線は植物に「やさしい」とうらやましくなるという内容の後に、それはひがみである、という内容が続くので、逆接の接続詞「しかし」が入る。

問二 一文をよく読みましょう。「果実も」とあるので、前文でも同じような内容のことが書かれていると予想できます。すると、38行めから始まる段落の後半で、「野菜は～鮮やかな色を保っている」と書かれているのが見つかります。

問三 問一でみたように紫外線が当たると有毒な活性酸素が発生することがわかりました。それでは紫外線を避けるために人間はどのような工夫をしているのでしょうか？ それは19～32行めで説明されており、その中で選択肢に出てくる、紫外線を避けるためのいくつかのグッズがあげられています。そこで空欄後を読むと、植物のしくみとして「紫外線を反射、散乱させ」「紫外線を吸収する物質を含む」とあります。これは「紫外線を散乱～配合されて」(25・26行め)いる「日焼け止めクリーム」(23・24行め)と同じなので、日焼け止めクリームが適切です。

問四 傍線部後を続けて読みます。酸素は「かけがえのない大切な物質」(3行め)であるの

で、活性酸素は「すばらしい働きをする」(5行め)と思われます。つまり、活性酸素という「きれいな語感」(8行め)からは「良いイメージ」(8行め)しかわかりませんが、実際は問一でみたように「きわめて有毒」(13行め)なものです。イメージと実態がかけ離れていることを示すことで、強烈な印象をもたらします。

問五 問四でみたように、紫外線が恐ろしい理由は14行めから書かれています。とくに「紫外線が目や皮膚に～もたらす」(16～18行め)をまとめると良いでしょう。

問六・七 「そのように」とは、48行めの「紫外線は～やさしい」を指します。問五でみたように、私たち人間は紫外線を避けるために多くの気を使っていますが、それに対して植物は、「日焼けをしている様子はない」(38・39行め)し、「害を及ぼすどころか～きれいにする」(47行め)ので、うらやましく考えてしまうのですね。ただし、それは「ひがみである」とあります。傍線部後を読むと、「植物たちも～悩み闘って」(51行め)いて、それは「約四億年前」(55行め)からずっと続いてきたことで、「活性酸素を消去するしくみ」(64行め)ができあがったのだとわかります。

問八 きれいな色になる理由は77・78行め「活性酸素から身を守るために～多くつくる」からです。つまり、このきれいな色となる物質は「活性酸素を消去する働きをも」(76・77行め)っており、「抗酸化物質」(68行め)とよばれています。

〈発展問題〉

問一 1 エ 2 イ 3 ア 4 ウ

問二 A オ B ア C ウ D イ E エ

問三 エ

問四 例 生きるために必要なものは収入が増えてもよけい買おうという気は起こらない。(。)

問五 1 エ

2 例 広告に操られ、買っても買っても心が満たされず、いつもなにか欲しくて、買いたくて、不満が残るという人間になっていく。

問六 例 人間が生きるために必要の少ないものだから。

問七 ウ

問八 イ

問九 イ

問十 例 無理して売れるようにする工夫が行われる例

問十一 第一段落 エ 第二段落 オ 第三段落 ク 第四段落 ア

解説

出典は、伊藤光晴「君たちの生きる社会」より。

問一 1 化粧品^{けしょうひん}を使って日本じゅう美人だらけにならないことが理由^{りゆう}となって、「これはよくない、別のものにしよう～」と思うようになるという結果^{けつこ}になると述べていますから〈順接〉。 2 文末表現「～わからないからです」から〈理由説明〉の文であることがわかります。 3 「～これ（熱）をさげなければいけません」と述べた直後で、「それ（熱）を無理にさげないほうがいいのかもしれませんが」と述べていますから〈逆説〉。 4 「カゼに××」が「かぜに“強力”××」となり、さらに「××・エース」とか「××・ゴールド」とか名前を変える、という文脈ですから〈添加〉。

問二 A…「貧しい時代だったら」という仮定表現^{こお}と呼応する「もし」。 B…「～収入^{しゅうにゅう}がふえても」という逆説仮定条件の表現と呼応する「たとえ」。 C…「議論^{ぎろん}するまでもなく、すでに結論^{けつろん}は決まっている。いうまでもなく」という意味を表す「もちろん」。 D…「～会社の人たちではないでしょうか」という推量^{すいりよう}の表現と呼応する「おそらく」。 E…「他のことは別にしても、このことだけは強調したい」ときに用いられる「なにしろ」。

問三 「～敗戦後の、人びとが飢えていた時代、いったい広告がありましたか。『みなさん、お米を食べましょう、お米を食べないと 』／そんな広告はなかったのです」という文脈の中の空欄^{くうらん}です。「人びとが飢えていた時代」という限定との対応から「飢え死^{うじ}にしますよ」が最も適した表現であると推理します。

問四 指示語の問題だからといって直前の一文「こうしたものの需要^{じゅうよう}はのびず～経済^{けいぎ}的にはめぐまれないという形になるのです」に注目しても、「みなさんもそうでしょう」という文とのつながりがあるようには思えません。この一文の直後の内容がヒントになります。「お父さんがボーナスもらったぞ、さあ明日からごはんを四杯食べよう、なんていうことにはなりません」という一文は、「みなさんもそうでしょう」の具体例^{くわいれい}です。以上のことを確認^{かくにん}したうえで、改めて直前の段落^{だんらく}を読み返しましょう。「収入がふえても」（18行め）＝「ボーナスもらった」、「よけい買おうという気は起こりません」（18・19行め）＝「ごはんを四杯食べよう、なんていうことにはなりません」と22～24行めの具体例と対応しています。何を「よけい買おうという気」が起こらないのか——「生きるために必要なもの」（17行め・例えば「米」）です。17～19行めの内容を受けて「みなさんもそうでしょう」と言っているのです。

問五 1 貧しい時代には「生きるために必要なもの」は広告がなくても人々は買って生きてきたが、豊かになった現在、「ほんとうは生きるために必要のないものであっても、それが欲^ほしくて欲しくてたまらないように思わせていく広告が力^{はつ}を発揮^きしてくる」（25～28行め）現代の社会について、文章全体を通して「批判^{ひはん}」しています。文章の最後は、「ここに、お金の世界のひとつの病^{びょう}いがかくされているのです」という一文で終わっています。

2 第二段落～第四段落にかけて具体例を挙げながら「ほんとうは生きるために必要のないものであっても、それが欲しくて欲しくてたまらないように思わせていく広告」について批判的に文章を展開していきます。そして第四段落の後半で「～広告によって、欲望をつくりだす社会が進んでゆくと、どうなるでしょう」（151・152行め）と問いかけ、答えてゆきます。一言で言えば「広告に操られる人間になってしまうのです」（158行め）。152～157行めの表現を整理して、「広告に操られる人間になって」いく過程を説明します。

問六 具体例の直前・直後に要点・まとめ——あることを言う、理解を促すための具体例です。——線部の直前、第一段落の末尾、「～広告がいつぱい出てくるものは、案外、この世の中にあってもなくても、人間が生きるために必要の少ないものではないでしょうか」（30～32行め）これを受けての「いちばん広告されているもの～化粧品とかビタミン剤、栄養剤です。」これらのものは「人間が生きるために必要の少ないもの」の代表例だということです。

問七 「かぜ薬が、かぜそのものに効かない」（60行め）ことがわかっていながらかぜ薬を作るとすると薬を「飲むときが大切だ」（63行め）ということになります。64行めからの段落の前半では、かぜのひきはじめのときに薬を飲むといいことが書かれています。2の直後で「それが信頼を得る（薬が効いた）」とあります。「治りかけたときに」薬を飲む→「治る」（かぜ薬が効いて治ったと思う）→「信頼を得る」という因果関係です。

問八 第二段落前半、化粧品についてのまとめにあたる部分に「やはりほんとう以上のことを広告しつづけている～」（49・50行め）とあります。後半の「かぜ薬」についても、「かぜの症状をおさえる」（53行め）だけで「かぜそのものに効かない」（60行め）とわかっていながら、毎年のように名前を変えて「今度のは効く」という広告を繰り返しているという実態を紹介しています（60～75行め）。化粧品同様、「ほんとう以上のことを広告しつづけている」（49・50行め）と言ってよいでしょう。

問九 設問文中で「企業は～というこの事実を、どのように考えていますか」と問い、そのうえで「筆者の考えとして最も適切なものを」と問うています。「企業」の代表として「電化製品の会社の副社長さん」が登場します。110～117行めで「企業」の考えが述べられています。「これで良いのでしょうか」（117行め）と筆者は疑問を投げかけていますが、117～120行めで、副社長さんの語った現実を追認しています。

問十 ハイヒールの例は第四段落の冒頭^{ぼうとう}から始まっています。具体例の直前・直後に要点・まとめ——第三段落の末尾＝具体例の直前に注目しましょう。「バカでそだつ日本の経済^{けいざい}」の例が一段落したところで「問題を実はこの先です。品物がある程度ゆきわたると、それ以上はなかなか売れません。すると、無理^{むり}して売れるようにする工夫^{くふう}が行われる場合があるからです」（121～123行め）とっています。その具体例としてアメリカのハイヒールの例が第四段落前半で紹介されているのです。

問十一 段落ごとの話題、要点、重要語句^{キーワード}などに着目します。

第一段落 「生きるために必要なもの」は広告がなくとも買う、「生きるために必要なもの」を広告の力で売れるようにするのが現在の社会 →エ

第二段落 段落の第一文が「いちばん広告されているものはなんですか。」です。その答えは、問六でも確認したように「人間が生きるために必要な少ないもの」です。 →オ

第三段落 流行を追ってくれる五%の人々にまず商品を買ってもらい、その利益で生産の技術を高め、大量の安い製品を作って売る——「バカでそだつ日本の経済」。 →ク

第四段落 広告によって、欲望をつくりだす社会が進んでゆくと、広告につられて新しい品物を買いつづけ、買っても買っても満たされない、広告に操られる人間になる。 →ア

第5・6回 ことわざ・故事成語

- ① ① 9 ② 13 ③ 10 ④ 19 ⑤ 99
- ② ① 川・キ ② 馬・イ ③ 鳥・ウ ④ 魚・エ ⑤ 功・オ
- ③ ① イ ② エ ③ オ ④ ア ⑤ ウ
- ④ ア 8 イ 2 ウ 6 エ 9 オ 5
- ⑤ ① ウ ② ア ③ イ ④ オ ⑤ エ ⑥ カ
- ⑥ ① A ウ B く ② A ク B き ③ A キ B え
 ④ A カ B う ⑤ A オ B い ⑥ A エ B あ
 ⑦ A ア B お ⑧ A イ B か
- ⑦ ① ウ ② イ ③ ア ④ オ ⑤ エ

第7・8回 三字熟語・四字熟語

- ① 問1・2 ① 末 ② 雨 ③ 模 ④ 故 ⑤ 風 ⑥ 投 ⑦ 百 ⑧ 八 ⑨ 万
 ⑩ 八 問3 ウ
- ② 1 公 2 私 3 有 4 無 5 玉 6 石
- ③ (1) イ・ニ (2) 口・ホ
- ④ ① 画 ② 業 ③ 給 ④ 由 ⑤ 暴
- ⑤ (1) 温故知新 (2) 異口同音 (3) 用意周到
- ⑥ ① エ ② ク ③ イ ④ カ ⑤ オ ⑥ コ ⑦ ア ⑧ キ ⑨ ケ ⑩ ウ
- ⑦ ① 皮 ② 千 ③ 等 ④ 作 ⑤ 頂
- ⑧ ① 一辺倒 ② 金字塔 ③ ○ ④ 先入観 ⑤ 門外漢
- ⑨ ① イ ② ア ③ エ ④ ウ ⑤ オ

漢字の学習 第五回

1 構える	2 拾う	3 拝む	4 測る	5 複雑
6 裁く	7 備える	8 発揮	9 効き	10 慣れ
11 気配	12 刻む	13 展覧	14 預ける	15 縮める
16 垂れる	17 営む	18 務める	19 夢中	20 容易
21 勤める	22 群れ	23 帯	24 似る	25 厳しい
26 けわ	27 こころ	28 そな	29 ひたい	30 すあし

漢字の学習 第六回

1 寒暖	2 対象	3 任せる	4 観察	5 不思議
6 機能	7 訪れる	8 印象	9 誤り	10 修める
11 延びる	12 領域	13 収拾	14 想像	15 簡単
16 導く	17 口調	18 治める	19 競争	20 穀物

21 供える	22 見当	23 易しい	24 採る	25 砂糖
26 お	27 しりぞ	28 ふんべつ	29 つ	30 つら

漢字の学習 第七回

1 検査	2 盛る	3 速い	4 確信	5 検討
6 奮い	7 散策	8 姿勢	9 貿易	10 指図
11 価値	12 険しい	13 唱える	14 傷	15 除外
16 雑誌	17 追究	18 展示	19 染める	20 境界
21 素材	22 許す	23 挙げる	24 居間	25 相当
26 かえり	27 いっぴょう	28 あば	29 おか	30 こまごま

漢字の学習 第八回

1 興奮	2 筋道	3 独創	4 洗練	5 穀倉
6 納める	7 関心	8 明朗	9 気候	10 設ける
11 発芽	12 発覚	13 貯蔵	14 経過	15 極まり
16 責める	17 拝見	18 計る	19 困難	20 危険
21 専門	22 首脳	23 映る	24 余念	25 歴訪
26 みなもと	27 かな	28 こな	29 しぐさ	30 ほんもう